

特別支援教育推進計画

学校教育目標 地域とつながり 豊かな心と言葉で 自ら学ぶ児童の育成

学校経営理念 みんなが幸せになる学校

—行きたい 行かせたい つながりたい 勤めたい と思える学校に—

特別支援教育の目標

- 児童の自立や社会参加を図るため、一人一人の教育的ニーズを的確に把握し、その持てる力を高め、障害による生活上や学習上の困難を克服するよう、適切な指導や必要な支援を行う。
- 発達障害のある児童の一人一人の障害の状態や発達段階に応じたきめ細かな指導の充実を図る。
- 社会生活を送っていくための基本的な能力と態度を育てる。
基本的な生活習慣の確立・基礎学力の習得・体力の保持増進・様々な生活経験・体験学習
対人関係についてのスキル・交流教育等を通じた友だちと関わり合う力の育成
- 家庭・地域との協力・連携をし、支援を必要とする児童への地域社会の正しい理解と認識を深める。

具体目標

- 障害をもつ子供の可能性を伸ばすため、児童一人一人の実態をふまえた個別指導の研究をする。
- 一人一人の違いを認め合い、共に学び合う学級集団をつくる。
- 家庭や地域社会との協力・連携を密にし、子供の見方や考え方について正しい理解と認識を深めていくための啓発に努める。
- 各学級にいる児童の中で配慮が必要な児童について交流し全職員で意識統一して指導を進めていく。
- 特別支援教育にかかわる研修を進め児童の指導に生かしていく。

推進計画

1 体制整備

①校内委員会の設置

- ・校長のリーダーシップの下、全校的な支援体制を確立し、発達障害を含む障害のある児童の実態把握や支援方策の検討等を行う。

②校内研修

- ・「個別的教育支援計画・個別の指導計画」を作成している児童を中心に、困り感があり支援を必要とする児童の実態を全体で交流する。

③外部専門家との連携

- ・特別支援教育コーディネーターが中心となって、特別支援学校のセンター的機能の活用や外部専門家との連携を図る。（年間を通じて巡回相談や教育相談の利用）

④特別支援教育支援員との連携

- ・支援員が授業を中心に児童への個別の支援を行い、担任や特別支援教育コーディネーターと随時連携する。

2 個別の指導計画の作成と活用による指導の充実

児童一人一人の障害の状態や発達段階に応じたきめ細かな指導の充実を図るために個別の指導計画を作成する。

①実態把握

- ・面接、行動観察、検査等の方法で、障害の状態、発達段階、保護者のニーズ等に関する情報を集める。

②目標の設定と指導計画の作成

- ・担任は、児童の実態をもとに、「指導内容」「目標」「手だて」について年間を見通した長期目標及び学期単位の短期目標を設定し、作成する。

③総合評価

- ・担任は、目標がどの程度達成できたか、目標設定や手だては適切であったかを客観的に評価し、学期末ごとに次学期、次年度の計画の作成に取り組む。